

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和3年4月1日改正
(令和3年4月1日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：下呂市立みなみこども園	種別：認定こども園
代表者氏名：小 林 桂 子	定員（利用人数）：240（189）名
所在地：岐阜県下呂市萩原町萩原600-1	
TEL：0576-52-2560	ホームページ：http://www.sun-hagiwara.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成19年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人サン・はぎわら	
職員数	常勤職員：22名 非常勤職員 27名
専門職員	（専門職の名称）名
	保育士 41名
	栄養士 1名
	調理員 6名
	看護師 1名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
	保育室 13室 遊戯室 1室 給食室 事務室 調理室 支援センター さくらんぼ

③理念・基本方針（※転載）

保育理念

NPO法人サン・はぎわらの願い「地域の人材やネットワークを活かし、地域に暮らす人々の手で、地域の子どもの健やかな成長をめざした子育て支援の拡充」を受け、地域のこども園として、地域や保護者の願いを受け止め、恵まれた自然・地域の人々と触れ合いながら、子ども達のために最善を尽くすこども園をめざす。

保育方針

「恵まれた環境の中で、子ども達の健全な心と体の成長をめざす保育」
そのために、

- ・「食・遊・眠」を生活の基本として、個性を大切にする。
- ・遊びや集団生活を通して、思いやりや協調性を育てる。
- ・地域、保護者との連携を深め、豊かな体験を通して生きる力を育てる。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・自然に恵まれた環境を活かした保育を行う中で、園外での自然の変化が感じ取れ、散歩する中で基礎体力の向上を目指している。また、農園活動に力を入れ、今年度はスイカ、

ポップコーン用トウモロコシ、さつまいも、プチトマト、大根等を作り、野菜を育てる作業を手伝いながら、クッキングや収穫祭で食べることを大切にしている。

- ・地域に根ざした保育園として、地域の歴史・文化にふれあう保育を大切に、また地域の人々に積極的に保育に参加してもらうことを目指している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年10月18日（契約日）～ 令和5年2月6日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成25年度）

⑥総評

◇総 評

サン・はぎわらの「サン」にはいろいろな意味が込められているが、やはり、市民の参加・参画の「サン」の実践がここに展開されているという印象を持った。そして、格調高く理念を掲げ、園の運営に当たっている姿勢に清々しさを感じ取れた。

今回、再びこの園を訪れて、改めて、調査する・されるという固定的な立場の関係性で評価が行われるのではなく、話し合いの相互関係の中から、ともに気づきが生まれ、質の向上につながるものとの思いを強くしたものである。

◇特に評価の高い点

＜NPO法人により運営されており、地域のネットワークが保育に活かされている。＞

地域の市民参加・協働型NPO法人運営のメリットを活かし、子どもたちの成長に関わる多様な支援が行われている。子ども、保護者、地域の高齢者、さらには、小中学校を含む年上の子ども達との関係の中で、こども園の生活が営まれている。

園運営においても地域の人材（高齢者、農業指導者等）やネットワークを活かし、地域の人々の手で子どもたちの成長を見守り、共に育てることを信条にして運営している点は、他園にはない大きな特長である。

＜保育と療育の統合保育が行われている。＞

療育の「さくらんぼ教室」や「子育て支援センター」がともに、園舎内に設置されており、地域で生きる子どもたち・人間力豊かな子どもたちを育む発達保障の場となっている。「せかさない・遊びきる」保育を大切に、子ども自らが学び育つ養護と教育が具体化されている。療育を必要とする子どもたちと家族もともに支え合い、育ち合う場として統合保育が行われている。

＜コミュニケーション力の育成が行われている。＞

毎朝、10分程度の朝礼の時間を設け、出勤してくる全職員の参加の下、保育目標を唱和し、保育方針の共有に努めている。さらにその時間内で「職場の教養」を読む時間を設けている。その際、輪番制でコメントを発表し合う時間を設けることで、仲間を思い・知る機会になり、さらには人間性を高める場にも通じるものと考え。保育者同士のつながりを深め、保育観を創っていく過程における良い機会でもあるので、さらに充実していかれることを期待する。

＜広い園庭と園舎の中でのびのびと活動できる。＞

園庭や保育室はゆったりと広く、子どもたちが十分に活動できる環境となっている。テラスの空間や遊戯室では、天候を気にせず、様々なおもちゃで遊ぶ事ができるよう環境が整えられている。室内では、活動によっては机を寄せて広く使い、パズル、ブロック等、子どもたち

が、遊びたいおもちゃがいつでも使えるようになっている。また、年長児クラスでは、小動物(メダカやカブトムシ等)を飼育して、生き物を大切にする気持ちを持たせるようにしている。

◇改善を求められる点

＜事業計画の保護者等への周知について説明機会の拡充に向けた取り組みに期待したい。＞

事業計画の保護者等への周知について、今年度は、コロナ禍の影響で十分な事業計画全体の説明の機会の確保が困難な状況にある。今後とも、状況を見ながら、機会拡充に向けた取り組みに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の福祉サービス第三者評価の受審を通して、自己評価の段階から日頃の保育や運営を見直す機会にもなり緊張感も持てたことは良かったと思います。また、専門家による保育のあり方や園の運営全般について評価を頂くことにより、改善すべき点である事業計画の保護者への周知については方法を見直すよい機会となりました。また、良い点については具体的に示して頂いた内容については自信を持ちながらも、より良くするための努力を推し進めます。今後は、多様化する地域の子育て支援ニーズに対応した支援の提供に努めていきたいと考えています。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。